

サウスダコタの中絶論争 (5)

－ ミズーリ河以西のスタン・エイデルステイン州上院議員と選挙－

佐々木裕美

Anti-Abortion Controversy in South Dakota (5)

－ West River Legislator Sen. Stan Adelstein and Election－

Yuumi Sasaki

キーワード：サウスダコタ州 South Dakota、リプロダクティヴチョイス Reproductive Choice、スタン・エイデルステイン州上院議員 Sen. Stan Adelstein、予備選挙 Primary Election、2006年中絶禁止法案 HB1215(2006)、住民投票(2006) Referred Law 6(2006)、住民提案(2008) Initiated Measure 11(2008)、ウエストリヴァー West River

はじめに

2006年のサウスダコタ州議会で可決され、知事が署名した厳しい中絶禁止法HB1215(2006)の成立とその後の動向、圧力団体、州民や州議員、州司法長官らのインタビューと二度にわたる住民投票を含む選挙結果を通して、女性のリプロダクティヴヘルスをめぐる同州での議論について、これまで4回にわたって報告した¹。合衆国連邦議会や他州議会と同様、多くの政策が共和党と民主党の二大政党間で議論される一方で、中絶や同性間結婚、死刑の是非をめぐる社会的・倫理的問題に関しては登録政党による明確な意見の分裂は見られず、これらが個人の価値判断に委ねられる課題であること、しかしながらこれらの問題に対する候補者の立場は、選挙民が投票する際の大きな判断材料となることを確認した。女性のリプロダクティヴチョイス(中絶を選択する権利)を擁護する立場は、特に共和党予備選挙において大きな打撃となることも、選挙結果から明らかとなった。

前号において、中絶禁止立法成立の努力に大きな影響を与える力のひとつとしてカトリック教会、特にミズーリ河以東地域(East River)を管轄するスーフォールズ司教区を中心に挙げた。カトリック教会のことだけを取り上げる

のは公正を欠くので、本論に入る前にまず、中絶禁止法に異を唱えて立ち上がった州内の宗教指導者たちの活動「道義的選択を支持する聖職者連合」(Pastors for Moral Choice)について紹介する。そして今回は、2006年中絶禁止法に至る前段階として2005年議会の法案(HB1233)によって決められたサウスダコタ州中絶調査特別委員会(South Dakota Task Force to Study Abortion)と、そのメンバーのひとりで、ヒステリックな状況の中、共和党・民主党両党のプロチョイス派議員の当選に積極的に関わった共和党州上院議員スタン・エイデルステイン(Sen. Stan Adelstein)²の行動を中心に議論を進める。

第32選挙区のエイデルステインと第33選挙区のJ.P. ダニファン州上院議員(J.P. Duniphan)³の二人は、HB1215(2006)に反対票を投じたことによってこの論争の渦に巻き込まれ、直後の共和党予備選挙に敗れた。この敗北は、特にサウスダコタ州のミズーリ河以西地域(West River)のスーフォールズ(Sioux Falls)に次ぐ州内2番目の都市ラピッドシティ(Rapid City)周辺の選挙区の特異性と共和党予備選挙の特徴を示すのに象徴的である。二人の2006年選挙と2008年選挙、2010年予備選挙を通して、ミズーリ河以東地域とは異なるように思われるミズーリ河以西地域の状況を報告する。

I. 道義的選択を支持する聖職者連合

2006年10月10日、5つの主流プロテスタント教会の聖職者たちがスーフォールズで記者会見を開き、中絶に関する見解についてローマンカトリック教会と福音主義教会 (Evangelical Church) とは一線を画することを表明した。5つの教会とは、監督派教会 (Episcopal Church)、アメリカ福音派ルーテル教会 (Evangelical Lutheran Church in America)、合衆国長老派教会 (Presbyterian Church USA)、統一キリスト教会 (United Church of Christ) とメソジスト教会 (Methodist Church) である。

道義的選択を支持する聖職者連合は、退職したメソジスト教会のラス・ターヴァー牧師 (Rev. Russ Tarver) が中心となって2005年にサウスダコタ州で組織された。彼らは、2006年議会に集まった105人の州議員たちそれぞれに声明文を渡した。あらゆる宗教が中絶を禁じているような錯覚から議員たちを目覚めさせようとする試みであった。ターヴァー牧師⁴によれば、彼らは何度も議会に足を運んでそれぞれの「宗派の教えが女性を信頼し、女性のリプロダクティヴチョイスを尊重することで合意している」ことを議会の委員会で証言した。後に全国的な宗教的圧力団体である「リプロダクティヴチョイスを支持する宗教連合」 (Religious Coalition for Reproductive Choice)⁵ から資金協力の申し出を得て、宣伝配布用のチラシを配り、州内の3つの主要な町—スーフォールズ、ラピッドシティ、アバディーン (Aberdeen) —の地元新聞に11月の選挙当日直前に集中して四度の広告を掲載した。

当時、州下院議員の一人として聖職者連合の声明文を受け取ったビル・トンプソン (Rep. Bill Thompson)⁶ は、そのときの様子を次のように語った。「自分は信心深いからプロライフの立場を表明しているのだと思い込んでいた議員たちが、声明文に記載されたプロチョイスの宗派のリストの中に自分の教会の名前を見つけて驚いていました。あれはかなりショッキングな内容で、議員たちの反応は見ていて愉快でした。」

聖職者連合は、「サウスダコタ健康な家族生

活を守る会」 (South Dakota Campaign for Healthy Families)⁷ と共同で活動し、2008年には医療の現場への政治の干渉に不快感を持った医師たちの賛同を得て、サウスダコタ州医師会 (South Dakota Medical Association) がこの活動に加わった⁸。

ターヴァー牧師は、これらの宗派のあらゆる聖職者がこの運動に参加したわけではなかったことも認めた。「州内で参加した聖職者は30人か40人でした。住民投票 (2006) の結果が賛成44%—反対56%と二つに割れたように、この問題は州民を分断しましたが、教会についても状況は同じでした。中絶問題について牧師が自分の立場を明確にすることは、自分の教会の信徒を失うことにもなりかねませんでしたから、多くの牧師は慎重でした。それで、私のように退職した牧師達が活動の中心になりました。私の教会は、25年前に公式な立場を表明していたから問題はありませんでした。中絶は好ましいことではありませんが、女性の生命と、広い意味での精神面の健康を守ることを目的とする場合、およびレイプと近親相姦による場合は例外であるべきだ、という立場です。」

このようにして、サウスダコタ州で厳しい中絶禁止法成立を求めて運動を繰り広げたプロライフ派圧力団体のすべてが参加した連合体である「ヴォート・イエス・フォー・ライフ」 (VoteYesForLife) の背後にカトリック教会と「妊娠中絶反対全米協会」 (National Right to Life) の存在があったように、反対運動をする側にも、Healthy Familiesを支える「道義的選択を支持する聖職者連合」があり、彼らを資金面で支える全国組織、「米国家族計画連盟」 (Planned Parenthood) とRCRC、そして2008年以降にはサウスダコタ州医師会が加わって、禁止法推進派と対等の運動を展開し、プロライフ派の攻撃を迎え撃っていたことが明らかになった。

II. サウスダコタ州中絶調査特別委員会

2005年、現在も連邦裁判所で係争中の「中絶に関する情報開示法案」 (Informed Consent Bill) HB1166 (2005) が成立した。この法律は、

中絶を行なう医師に、膨大な量の説明責任を課すもので、例えば医師は口頭で中絶を受けようとする女性に対し、「中絶は完全に独立したこの世にひとりしかいない、生きている人間 (a whole, separate, unique, living human being) の生命 (life) を終わらせることである」と述べなければならぬなどの規定を含む⁹。この法案は、州下院を58-10で、州上院を24-10の賛成多数で通過し成立した。105人の州議員の実に78%が賛成票を投じたのであった。このことから判るように、2004年11月の選挙で選ばれた州議員たちのおよそ8割が厳しい中絶規制を求める保守派であった。2005年および2006年議会は彼らによって運営された。2004年は、不人気にもかかわらずブッシュ大統領が (George Bush) 再選を果たした年でもある。

HB1166 (2005) の成立とともに、議会は厳しい中絶禁止法HB1215 (2006) の成立へと向かう。その勢いを推進するのに一役を担ったのがHB1233 (2005) によって形成された「サウスダコタ州中絶調査特別委員会」であった。HB1233 (2005) は、2006年議会での法案作りに間に合うよう、2005年12月1日までに報告書を提出することを委員会に義務付けた。この委員会形成法案は、州上院では28-6、州下院では63-4で通過し成立した。

II - 1. 中絶調査特別委員会：委員の構成¹⁰

HB1233 (2005) により、中絶調査特別委員会のメンバーは次の方法で選ばれることが決められた。委員会は17人の委員で構成し、6人は州下院議長 (Speaker of the House of Representatives)¹¹の指名、6人は州上院臨時議長 (President Pro Tempore of the Senate)¹²の指名、5人は州知事 (Governor)¹³の指名による。これら3名全員が多数派である共和党員のため、指名を行う際の条件として二つの政党から委員を選出すること、会議は立法調査委員会 (Legislative Research Council)¹⁴の監視下で行なうことが取り決められた。

17人のメンバーは、以下のとおりであった。

- ・ Sen. Adelstein (共和党州上院議員)
- ・ Dr. Marty Allison (小児科医師・議長)

- ・ Sen. Julie Bartling (民主党州上院議員) *
 - ・ Dr. Maria Bell (婦人科医・副議長)
 - ・ Mr. Travis Benson (カトリック教徒) *
 - ・ Sen. Jay Duenwald (共和党州上院議員) *
 - ・ Sen. Brock Greenfield (共和党州上院議員) *
 - ・ Ms. Linda Holcomb (ラピッドシティ在住)
 - ・ Rep. Roger Hunt (共和党州下院議員) *
 - ・ Rep. Elizabeth Kraus (共和党州下院議員) *
 - ・ Ms. Kate Looby (家族計画協会員)
 - ・ Rep. Kathy Miles (民主党州下院議員) *
 - ・ Dr. John Stransky (元内科医) *
 - ・ Dr. Allen Unruh (スーフォールズ在住) *
 - ・ Dr. David Wachs (アバディーン在住)
 - ・ Mr. David Day (University of South Dakota 法科大学院教授)
 - ・ Sen. Thresa Two Bulls (民主党州上院議員)
- LRCからはルーベン・バズパレット (Reuben Bazpaletz) が加わった。17人のうち右端に印 (*) を付した9人が積極的な中絶禁止法推進論者である。

バズパレットによれば、最初からこの委員会の結論は決まっていた。「委員会に集まったメンバーはそれぞれがこの問題について明確な立場に立っていました。従って、集まって議論した結果で誰かの意見が変わることは考えられませんでした。」¹⁵

II - 2. 多数派意見のみの報告書

議事録によると、サウスダコタ中絶調査特別委員会は、LRC会議室において2005年8月1日、9月21-22日、10月20-21日、12月9日の4回にわたって開催された。議長を務めたアリソンは、主管である州保健省長官 (Secretary, Department of Health) にも出席を求めたが、応じられなかった。また最後の会議で報告書の内容についての議論の際に、彼女は次のような妥協案を提案し、エイデルスティン議員の支持を得たが、賛成したのはベル医師のみで、多数派の拒否により採択されなかった。議事録に残る彼女の提案とは、「一般に中絶は禁止されるべきものです。しかし女性が中絶という選択肢を与えられるべき残念な状況が起きる場合があります。そういう女性に代わって州がこのような

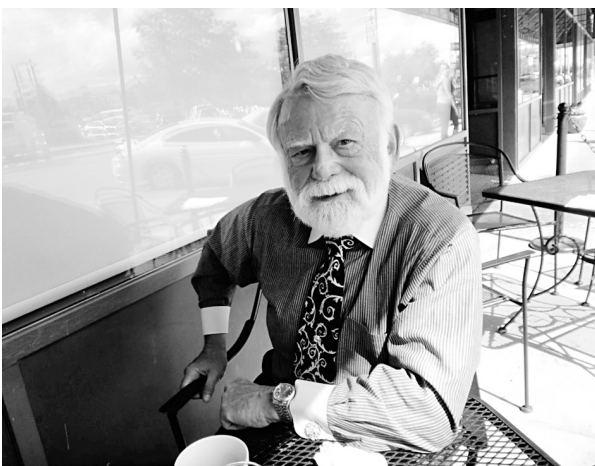
決定を行なうことは間違っています。報告書には、この特別委員会は中絶が行なわれる場合を例外として考慮することを含むべきです。」

報告書の内容をめぐる議論はどのように手を尽くしても例外の記載は排除され、多数派の強硬姿勢に辟易したエイデルスティン、ベル、ルービーは会議室から抗議の意思表示として退席した。LRCのバズパレッツは、プロライフの9人とともに、ただひとり残されたアリソン医師について「あの状況の中、最後まで公平な立場で議長としての職責をよく果たしたと思います」と評価した。

結果として作成された報告書には、多数派意見のみが掲載され、それがHB1215 (2006) の根拠となり、11月の選挙で行なわれた住民投票 (2006) ではプロライフ派の宣伝に大いに利用されることとなった。

II - 3. 少数派意見

当時の状況について、中絶調査特別委員会の委員の一人であったエイデルスティン議員に直接インタビューする機会を得た¹⁶。少数民族のユダヤ人として差別を受けてきた経験を持つ彼は、父親がラピッドシティで創設した道路建設会社 Northwestern Engineering Company を引き継いで成功したサウスダコタ州屈指の裕福なビジネスマンの一人である。ユダヤ系アメリカ人は圧倒的に民主党支持者となる傾向があるが、彼は「小さな政府と自助努力をモットーとする根っからの共和党員」である。ユダヤ教の教え



スタン・エイデルスティン州上院議員

から妊娠初期の中絶を容認する立場を取り、リベラルで合理的な考え方を持つ。

中絶調査特別委員会の議事録に記載されたやりとりを見る限り、彼の存在は際立っていた。指名された17人のうち、デイ教授とトゥーブル州上院議員の2名は4回の委員会をすべて欠席した。毎回出席した州議員は7人、うちエイデルスティンを除く6人全員が、年が明けて2006年1月10日から始まる州議会 (会期35日間) でHB1215 (2006) の提案者に名を連ねるプロライフ派議員であった。

当時を振り返って、彼は次のように語った。「中絶調査特別委員会の委員には、自分から申し出て指名してもらいました。公正に行なわれることを見届けなければならないと考えたからです。」彼が心配したとおり、委員会は中絶の全面禁止を求める多数派の一方的な主張に終始主導され、前述の内容で知事への報告書が作成・提出された。「我々の側は、相手側と比較して膨大な資料で裏付けられた非常に論理的な議論を公正に行ないましたが、全く通じませんでした。」

こうして2005年12月、中絶調査特別委員会の報告書として知事に届けられたのは71ページの多数派意見のみであった。これに対抗してエイデルスティンは2006年1月13日、ベル、ホルコム、ルービーとの連名で50ページの「少数派意見」を作成し、自分の手で直接ラウンズ知事に届けたという。

III. イーストリヴァー (East River) とウエストリヴァー (West River)

エイデルスティン議員の第32選挙区は、サウスダコタ州の西端に位置するラピッドシティにある。ラピッドシティは、州南東部のスーフォールズに続いてサウスダコタ州で2番目に大きな都市である。

図1はサウスダコタ州の66のCounty (郡) を示した地図である。ノースダコタ州との境となる州北側ほぼ中央から蛇行しながら南下し、それから南東へと流れるミズーリ河 (Missouri River) が州を二分する。これ以降ミズーリ河の

東側の地域をイーストリヴァー、西側の地域をウエストリヴァーと呼ぶ。2007年8月7日、名古屋市で行なわれた講演会¹⁷において、州上院少数党院内総務のスコット・ハイドプリーム (Scott Heidepriem) はその違いをチャールズ・ディケンズの『二都物語』のロンドンとパリに例えた。サウスダコタ州内に、地形も文化も住民も全く異なる二つの国があると言っていいほどの違いがイーストリヴァーとウエストリヴァーにはあるという。州都ピア (Pierre) はこの二つの文化が接する場所、すなわち州の地理的中心に位置する。厳密にはミズーリ河の東側である。1889年、ダコタ準州 (Dakota Territory) から州に昇格した折の妥協の結果であった。ミズーリ河は、州を東西に分断するだけでなく、1時間の時差をももたらす。イーストリヴァーは中部標準時 (CST)、ウエストリヴァーは山地標準時 (MST) が適用される。生活時間まで異なるのである。

イーストリヴァーは肥沃な土壤に恵まれ、なだらかな地平を持つ西部大平原の一部である。ハイウェイ沿いに小さな町が連なり、州立6大学のうち4大学と特殊学校、私立大学が集中する。商業の中心であり今も成長を続ける州内第一の都市スーフォールズは南東部に位置し、比較的リベラルな住民が多いといえる。

ウエストリヴァーは、農業に向かない地形のため牧畜業が盛んである。州西側を南北に連なるブラックヒルズ (Black Hills) はかつてネイティブアメリカンの聖地とされ、山頂の花崗岩壁に四人の大統領の顔が刻まれたラシュモア山国定記念物 (Mount Rushmore National Memorial) や、金鉱で栄えたデッドウッド (Deadwood)、

風食による自然の景観が美しいものの砂地の不毛地帯バッドランド国立公園 (Badlands National Park) などが位置する。ウエストリヴァーとは対照的に、町も住居も孤立して存在する。人口密度の違いは、選挙区の数からも判る。州内35の選挙区のうちイーストリヴァーには23選挙区、ウエストリヴァーには12選挙区しかない。2000年国勢調査による人口比は3対2であったことになる。

III - 1. ウエストリヴァーの二人の共和党州上院議員: エイデルステインとダニファン

2006年州上院議員の構成は、共和党25、民主党10であった。共和党25のうちHB1215 (2006) に反対票を投じたのは8、そのうち3がウエストリヴァーを選挙区とした。

反対票を投じた8のうち予備選挙が行われたのは4—イーストリヴァー2、ウエストリヴァー2—であったが、4人ともが予備選挙で中絶禁止法支持を訴える右派の共和党候補に敗北を喫した。そして11月の選挙でイーストリヴァー1、ウエストリヴァー1はプロチョイスの民主党新人候補が勝利し、残る2はプロライフの共和党新人候補が勝利した。

ここで注目したいのは、ウエストリヴァーの選挙区で予備選挙に敗北した州上院議員の2人—第32選挙区のエイデルステインと第33選挙区のダニファン—である。それぞれの予備選挙の結果を表2と表3に示す。

III - 2. 2006年予備選挙敗退後のエイデルステイン

中絶禁止法HB1215 (2006) 支持を強力に訴えるシングルイシュー候補のエリ・シュウィーソー (Elli Schwiesow) に予備選挙で敗れた直

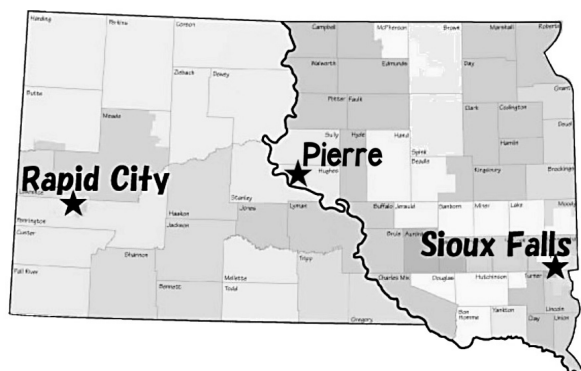


図1 サウスダコタ州地図 (郡)

表2 第32選挙区共和党予備選挙 2006. 6. 20.

	得票数	得票率
Schwiesow	2,145	52%
Adelstein (現職)	1,971	48%
	4,116	

後、エイデルステインは民主党院内総務のスコット・ハイドプリーム (Scott Heidepriem) から登録政党を民主党に変えて、民主党候補者として立候補しないかと誘いを受けたが熟慮の末に断ったという。彼はその代わりに記者会見を開いて共和党の予備選挙で自分に投票してくれた人々に共和党候補のシュウイーソーではなく、民主党候補のトム・ケイタス (Tom Katus) に投票して欲しいと訴え、ケイタスを支援して当選させた。表4は一般選挙の結果である。

2008年、エイデルステインは再び州上院の候補者となった。2年前に予備選挙で敗北した後、自分の票田を譲ったトム・ケイタスと、今度はインディペンダントとして立候補したシュウイーソーとの三つ巴の選挙であった。その結果を表5に示す。僅差で他の二人を制して、エイデルステインはケイタスから議席を奪い返した。4年が経過した2010年8月、彼は次のように述べた。「2006年の予備選挙に負けたあと、私はプロライフ議員の選挙区で、中絶禁止法に反対する州議員候補者を政党にかかわらず支援することにしました。民主党が躍進したことにより、共和党が議席を減らした上院ではプロチョイスのカヌードソン (Knudson) が僅差で多数党院内総務に選ばれました。それまでの共和党では考えられなかったことです。そして2008年の選挙で私がケイタスに勝って再び上院に戻ったとき、保健福祉サービス委員会 (Health and Human Services) の委員長職が用意されていました。2006年に予備選挙で敗北したことは、結

表3 第33選挙区共和党予備選挙 2006. 6. 20.

	得票数	得票率
Schmidt	1,236	61%
Duniphan (現職)	779	39%
	2,015	

表4 第32選挙区一般選挙 2006. 11. 7.

	得票数	得票率
Schwiesow	4,515	47%
Katus	4,994	59%
	9,509	

果として良かったのです。]

2006年と2008年の二度の選挙を通じて示されたのは、ラピッドシティにおける共和党の地盤の決定的な強さであった。表5で見る限り、2006年の第32選挙区での民主党候補のケイタスの勝利は、共和党のエイデルステインの強力な支援の結果でしかなかった。

2010年予備選挙でエイデルステインに挑戦する者はなく、民主党は第32選挙区に州上院候補を立てるのを見送った。議会においても有能なビジネスマンとして行動するエイデルステインは、民主党内からも一定の評価を得ているのである。ケイタスは、2010年には州財務長官 (State Treasurer) に立候補している。

III - 3. 2006年予備選挙敗退後のダニファン

一方ダニファンは、共和党員でありカトリックでありながらHB1215 (2006) に反対票を投じた。当時を振り返って彼女は次のように述べた。「私はカトリック信者ですし、プロライフでもあります。しかし、レイプによる妊娠の中断さえ例外として認めない偏狭な法案にはどうしても信念を曲げて賛成することはできませんでした。中絶問題に関しても、同性婚の問題に関しても、私は誰もが公平に扱われなければならないと思うのです¹⁸。」

2006年3月末に議会の会期を終えて戻った彼女を待っていたのは、第32選挙区のシュウイーソーと同じシングルイッシュ候補のデニス・シュミット (Dennis Schmidt) の挑戦であった。その結果は表3に示したとおりダニファンの惨敗であった。保守的で共和党員の多い地元の人々を取り込んだシュミット候補は11月の一般選挙でも民主党候補デニス・フィンチ (Denis Finch) に快勝した。結果は表6に示す。穏健派

表5 第32選挙区一般選挙 2008. 11. 4.

	得票数	得票率
Adelstein	3,834	34.91%
Schwiesow	3,683	33.54%
Katus	3,464	31.55%
	10,981	

の弁護士フィンチをもってしても、共和党が強い地盤を持つこの選挙区で民主党候補が勝つことはできなかった。フィンチは2008年にもシュミットに挑戦したが敗れている。その結果は表7に示す。

表6 第33選挙区一般選挙 2006. 11. 7.

	得票数	得票率
Schmidt	4,260	55%
Finch	3,501	45%
	7,761	

表7 第33選挙区一般選挙 2008. 11. 4.

	得票数	得票率
Schmidt	5,571	58.63%
Finch	3,931	41.37%
	9,502	

女性の地位向上を求める圧力団体の一つ、「行動する民主主義」(Democracy In Action)¹⁹の会員ジョスリン・ベイカー (Jocelyn Baker) は次のように説明する。「ラピッドシティでは選挙人登録の割合が共和党と民主党とでほぼ2対1です。2008年、私たち民主党は素晴らしい候補者を立て、選挙資金も潤沢にありました。十分な選挙運動もできたと思います。それなのに、誰も当選させることができませんでした。民主党の州議員候補者にとって皮肉な結果となったのは、普段は投票所に足を運ばない共和党登録者たちが、オバマ人気に危機感を抱いて投票所に出かけたことです。2008年の大統領選挙の盛り上がりは、普段は投票に出かけない共和党員まで投票所に行かせました。彼らは共和党候補者にしか投票しません²⁰。」実際、サウスダコタ州ではジョン・マッケイン (John McCain) 共和党候補がバラク・オバマ (Barack Obama) 民主党候補で現大統領の得票を上回った。そればかりか、過去7回の大統領選挙では常に共和党が勝利している。そして表8は、ラピッドシティ内4つの選挙区における共和党と民主党の登録者数を表したものである。共和党登録者が圧倒的多数を占めることから共和党の強い地盤の

選挙区であることが判る。党员として投票する場合には、すべての公職を党派によって投票する同一政党候補者投票 (straight ticket) を行なうのが一般的であることを考えれば、共和党候補が選ばれやすい選挙区であることは間違いない。

2006年に第32選挙区から州下院に立候補したこともある元教師で教育学博士、現在はラピッドシティ教育委員会委員のスーズン・ノーラン (Suzan Nolan) は、この地域でどれだけ努力しても民主党候補が勝てないことに大きな憤りを感じていた。「この地域では共和党でなければどんな選挙にも勝つことはできません²¹。」2006年、2008年の選挙にあらゆる候補者が敗北したあと、DIAは方針を変更し、もっと下のレベルの公職から徐々に働きかけていくことにしたという。

さて、話をダニファンに戻す。彼女は、2010年に再度州上院に挑戦したが、予備選挙で再び敗れた。敗れた相手は、第34選挙区の州下院議員としてHB1166 (2005) およびHB1215 (2006) の提案者に名を連ね、サウスダコタ中絶調査特別委員会のメンバーでもあった中絶禁止法支持のシングルイッシュウ候補、エリザベス・クラウス (Elizabeth Kraus)²²である。事実を反する酷い誹謗中傷キャンペーンを繰り広げるこのティーパーティー (Tea Party) 候補は、選挙区を変えて挑戦してきたのであった。DIAのメンバーでこの選挙区に住む作家で民主党員のカレン・ホール (Karen Hall) は、予備選挙でダニファ

表8 選挙登録者数 2010. 10. 1.

選挙区	共和党	民主党	登録者合計
32	7,462 (49.0%)	4,901 (32.2%)	15,223
33	7,419 (51.6%)	3,842 (26.7%)	14,382
34	8,187 (52.3%)	4,625 (33.2%)	15,642
35	5,880 (49.0%)	45,77 (30.4%)	13,774
	10,981 (49.0%)	17,945 (30.4%)	59,021

ンに投票するために登録政党を共和党に変えて応援した。エイデルSTEINも積極的にダニファンのために選挙区内の有権者宅を戸別訪問したり、虚偽の宣伝を打ち消すパンフレットを作成して選挙区民に送ったりして応酬したが、第33選挙区は「保守的な共和党員が多い上に、誰が投票するのかが全く判らない難しい選挙区」だと舌を巻いた。予備選挙の結果は表9のとおりである。

エイデルSTEINは予備選挙の後、「このまま無能なクラウスが一般選挙なしに州上院議員になるのを、手をこまねいて見過ごすわけにはいかない」と考えた。そして、ダニファンに対して「必ず勝たせるから、インディペンダントとして11月の選挙を闘わないかと誘った」が、断られている。彼は2006年、2008年と続けて敗退したフィンチにも同じように立候補を求めたが、彼からも断られたという。

ダニファン本人は、「党を変えて立候補しないかという話もありました。でも私は本物の共和党員です。クラウスのために自分が登録政党を変えることはできませんでした」と述べた。

IV. 選挙人登録

ところで、2006年の共和党予備選挙で敗れたエイデルSTEINに、民主党から一般選挙に出ないかと誘いがあったと先に述べた。エイデルSTEINもダニファンに同じような誘いをしている。また、DIAのノーランもホールも、それぞれエイデルSTEINとダニファンを応援するために登録政党を共和党に変えて予備選挙に出かけた。

そこで、サウスダコタ州の選挙人登録について触れておきたい。

IV-1. 連邦憲法と州法の規定

アメリカ合衆国連邦憲法修正第26条において投票年齢の引き下げが行なわれ、年齢18歳以上の合衆国市民に投票権が与えられたのは1971年のことであったが、登録の方法についての規定は各州に委ねられている。従って、ここで述べる選挙人登録とは、サウスダコタ州のそれであって、他州には適用されないことを最初に確認しておく。

サウスダコタ州では、選挙人登録は一年中のどの時期でも行なうことができる。登録用紙への記入はどこでも行なうことができるが、提出先は自分の住む郡の監査役 (County Auditor)²³ である。郡の監査役は選挙によって選ばれる公職で、選挙人登録の情報更新を毎日行なうことが義務付けられている。

登録用紙の提出期限は、投票を希望する選挙の15日前である。この用紙によって選挙区の移動、名前や住所の変更、登録政党の変更を行なうことも可能である。

選挙人登録をするための条件は (1)合衆国市民であることと、(2)投票日以前に18歳の誕生日を迎えることの二つである。

次に記入を求められる事項は、姓名、居住地、郵便物の宛先、旧姓 (名) がある場合は直前の旧姓 (名)、運転免許証番号 (無い場合は社会保障番号の下4桁)、登録政党、生年月日、電話番号の各項目で、初めての登録に必要な事項は以上である。そして以下の項目についての偽証には2年間の投獄と\$4,000の罰金が伴うことが明記されている。アメリカ合衆国市民であり、記載の住所を変更する予定がないこと、次の投票日まで18歳になっていること、精神的不適任とされたことがないこと、重罪で有罪判決を受け成人刑務所で服役した経験がないこと。これらに間違いがなければ最後に日付の記入と署名を行なう。登録内容を変更する場合は、以上の項目の記入とともに、直前の選挙登録を行った際の名前、居住地、誕生日、運転免許証番号と、日付、署名が求められる。

表9 第33選挙区予備選挙	2010. 6. 8.	
	得票数	得票率
Kraus	1,721	74.21%
Duniphan	598	25.79%
	2,319	

IV - 2. 登録政党の変更

サウスダコタ州では、いつでも登録政党の変更が可能である。実際に、民主党員でありながら、それぞれ自分の選挙区の共和党予備選挙でエイデルスティンとダニファンに投票するために共和党に一時期登録政党を変更したノーランとホールは、二人とも予備選挙を行なった直後に民主党に登録政党を戻したそうである。

紙面の都合で表を掲載できないが、2006年選挙、2008年選挙、2010年2月以降の政党ごとの選挙人登録数²⁴を見てみると、登録者数は、2008年に比べて全体に減少し、共和党も民主党もその数を減らしている。2006年と比較すると、共和党登録者がわずかに減少し、民主党登録者がわずかに増加している。そして、無党派は2008年の増加したレベルを保つものの、選挙権があるのにもかかわらず登録をしない者の数が大幅に増加している。2008年8月には、大統領選挙への関心の高さからか未登録者が最低に達した。

先に述べたように、ある特定の候補を応援するために簡単に登録政党を変更することが可能な一方で、州議員になるために登録政党を変えるのを拒む人たちもいれば、選挙で勝つために簡単に変える候補者もいる。このような政党への帰属意識についての議論は別の機会に譲る。

おわりに

今回は、サウスダコタ州中絶調査特別委員会の委員となり、2006年選挙の予備選挙敗北の後、プロチョイスの民主党州議員の選出を応援したエイデルスティンのインタビューを軸にウエストリヴァーに位置する第32選挙区と第33選挙区州議員の予備選挙を通してサウスダコタ州の中絶論争について概観した。ラピッドシティにおいてエイデルスティンとダニファンの命運を分けたのは、前者の選挙区が比較的町の中であるのに対し、後者の選挙区が人家の散在する田舎であること、後者の対立候補がティーパーティーの後押しを受けていたことであった。エイデルスティンはユダヤ教の信者であることが一般に

もよく知られており、中絶容認の彼の立場は明確にされている一方で、ダニファンにとってはカトリック信者でありながらHB1215 (2006) に投じた反対票がいまだに彼女の選挙戦に影を落としているといえる。さらにビジネスマンであるエイデルスティンが、世論調査を多用して周到な選挙対策を講じているのも大きな要因である。「世論調査によれば、選挙区民の27%は絶対に私にだけは投票しません。また私に欠けているものは何かという調査で『親近感』という結果がでました。それで翌日から選挙対策のための会合をマクドナルドで行なうことにしたのです。それで選挙民が私に抱いていたイメージを打破しました。」そう言ってから、「今年は」第32選挙区の候補者が他にいないので「そういえばマクドナルドに行っていない。そろそろ行かないと。」とつぶやいた。79歳の老練な彼だからこそ、一貫してプロチョイスの立場を守り抜き、2008年に議会に戻ってきた時には重要なポストを用意されることができたのかもしれない。

最後に、2010年選挙について、ここで少し触れておく。2010年11月2日に行なわれる中間選挙は、連邦レベルではオバマ政権に対する一定の評価を与えるものとなるが、サウスダコタ州にとっても大きな節目となる重要な選挙である。連邦上院（任期6年）2議席のうち1議席、連邦下院（2年）1議席、州議員（上院35、下院70）をはじめとして、すべての州公職（statewide offices）の改選が一斉に行われる。しかも、知事（Governor）、州司法長官（Attorney General）、州務長官（Secretary of State）、州監査役（Auditor）、州教育・公有地委員長（Commissioner of School and Public Lands）、州財務長官（Treasurer）の7つの公職のうち、州司法長官²⁵と州教育・公有地委員長を除くすべての公職が一期4年二期の任期制限を迎えるため、州の重要な公職はすべて新しいメンバーに入れ替わる。これらの公職のうちどれだけを民主党が奪い取ることができるだろうか。また、民主党州知事候補となった上院少数党院内総務のハイドプリームは、共和党現職が絶対優勢のサウスダコタ州で現職の州副知事デニス・デュガード（Dennis Daugaard）²⁶からどれだけの票を奪うことができるだろうか。

次号では2010年11月の選挙結果に注目し、サウスダコタ州の中絶論争を扱った一連の報告のまとめとする予定である。

注

- 1 「サウスダコタの中絶論争(1) —HB1215をめぐる一—」(愛知学泉大学・短期大学紀要第41号 pp.109-118. 2006年12月)、「サウスダコタの中絶論争(2) —HB1215に選挙民はどう応えたか—」(愛知学泉大学・短期大学紀要第42号 pp.101-110. 2007年12月)、「サウスダコタの中絶論争(3) — HB1215の敗北と新たな中絶禁止法案—」(愛知学泉大学・短期大学紀要第43号 pp.101-110. 2008年12月)、「サウスダコタの中絶論争(4) —2008年選挙結果、および中絶禁止立法にカトリック教会が与える影響—」(愛知学泉大学・短期大学紀要第44号 pp.101-110. 2009年12月)
- 2 Stanford Adelstein 1931年8月19日生、男性、共和党、州下院議員(2001-2004)、州上院議員(2005-2006、2009-2010)
- 3 J.P. Duniphan 8月31日生、女性、共和党、州下院議員(1995-2003)、州上院議員(2003-2006)
- 4 2010年2月14日、スーフォールズの統一キリスト教会および自宅でインタビュー。
- 5 これ以降RCRCと表記する。
- 6 Bill Thompson 1944年2月13日生、男性、民主党、州下院議員(2003-2010)。2010年2月13日スーフォールズの自宅にてインタビュー。
- 7 これ以降Healthy Familiesと表記する。
- 8 住民提案(2008)は、例外付きの中絶禁止法案ではあったが、例外には厳しい条件が付され、これに反して中絶を行なった医師を第一級殺人の犯罪者として起訴するという内容を含んでいた。
- 9 サウスダコタ州法(SDCL)、34-23A-10.1
- 10 これ以降に記すサウスダコタ中絶調査特別委員会の内容は、LRCに保管されている議事録(Minutes, South Dakota Task Force to Study Abortion, 2005)による。
- 11 マット・マイケルズ(Matt Michaels)が指名したのは、州下院議員のロジャー・ハント、エリザベス・クラウス、キャシー・マイルズの3名と、サウスダコタ法科大学院のデイヴィッド・デイ教授、ラピッドシティ Rapid Cityのリンダ・ホルコーム、サウスダコタ家族計画協会のケイト・ルービーの3名を含む計6名。マイケルズは、2010年6月8日の共和党予備選挙の結果、共和党知事候補となった現副知事デニス・デュガード(Denis Dugaard)の指名により、副知事候補になった。
- 12 リー・ショーエンベック(Lee Schoenbeck)が指名したのは、州上院議員のスタン・エイデルスティン、ジュリー・パートリング、ジェイ・デュアンワルド、ブロック・グリーンフィールド、トゥリーサ・トゥブルズの5名と、元内科医ジョン・ストランスキの計6名。
- 13 知事マイク・ラウンズ(Mike Rounds)が指名したのは、小児科医マーティ・アリソン(議長)、婦人科医マリア・ベル(副議長)、カトリック教会スーフォールズ司教区ロビイストのトラヴィス・ベンソン、プロライフ活動家のアレン・アンルー、アバディーンのデイヴィッド・ワックスの5名。
- 14 これ以降、LRCと表記する。
- 15 2010年2月10日LRCのオフィスにてインタビュー。
- 16 エイデルスティン州上院議員のインタビューは、2010年8月31日、9月2日、3日の3度にわたった。
- 17 2007年8月7日、南山大学アメリカ研究センター・名古屋アメリカ研究会共催、名古屋アメリカンセンター後援により南山大学名古屋キャンパスで行なわれた。演題は、“South Dakota State Politics: A Work in Progress”(サウスダコタ州政治：進行中の取り組み)
- 18 2010年9月1日ラピッドシティでインタビュー。
- 19 これ以降はDIAと表記する。DIAは超党派の政治的圧力団体で、女性の地位向上を求める女性であれば誰でも参加することができる。
- 20 2010年9月3日ラピッドシティにてインタビュー。
- 21 2010年9月3日ラピッドシティにてインタビュー。
- 22 Elizabeth Kraus 女性、共和党、州下院議員(2003-2006)
- 23 郡監査役は任期4年の公職で、2010年は選挙の年にあたる。
- 24 サウスダコタ州HP <http://www.sdsos.gov>
- 25 本来任期期限を迎えるはずであった前司法長官のラリー・ロング(Larry Long)が2009年9月、任期途中で裁判官に任命されたのに伴い、知事がマーティ・ジャックリー(Marty Jackley)を新しい司法長官に任命したためである。ジャックリーにとってもこれが初めての選挙となる。
- 26 Dennis Dugaard 1953年6月11日生れ、男性、共和党、州上院議員(1997-2002)、サウスダコタ州副知事(2003-2010)。2010年6月8日に行なわれた共和党予備選挙で勝利し、共和党知事候補となった。